

1 自己評価

分析・改善策

- (1) 倉敷天城中学校と倉敷天城高等学校が有機的に協力し、充実した教育活動のできる学校運営を行う。
- ・中高合同で中学3年生の進路検討会を行い、生徒個別に理数科への適性等を検討し、保護者懇談でアドバイスをを行った。
 - ・6年間を見据えた教科指導の観点で中高教科会を行い、検討の結果、中学校の国語、高校の数学においてそれぞれ教育課程の一部見直しを行った。
 - ・保護者懇談会、学活等で中高の進路指導課長による説明を行い、生徒自らが自己実現できるよう、6年間を見据えた進路指導を行った。
 - ・中高合同で、学校祭、中高合同運動部トレーニングなどを実施し、帰属意識や自己肯定感などを醸成した。
- (2) 開かれた学校づくりを推進し、適切な情報発信を行うとともに、地域と連携することで教育活動を充実させる。
- ・生徒募集という観点で、オープンスクール、学校説明会などを実施した。学習塾等の訪問は中高で連携しながら行った。
 - ・ホームページの管理を随時行い、学校行事、学年、部活動など即時ブログアップを行った。
 - ・近隣地域の交通安全対策協議会に参加し、相互の協力を確認するとともに、地域住民に信頼されるよう努めた。
- (3) 本校生徒に求められる基礎学力とこれからの時代に求められる学力をあわせて身に付けさせ、各生徒にふさわしい進路実現の基礎を培う。
- ・本校独自の教育プログラムである「グローバル」、「サイエンス」についての教員研修を行い、再認識とコンセンサスの深化を進めた。
 - ・読書啓発という観点で、図書館 News の定期配付、ホームルーム読書会、ビブリオバトルなどを行い、読書の楽しさや意義を生徒にアピールした。
 - ・教科指導で、理科の発展学習、数学・英語の基礎学習など、始業前、放課後に学習会を毎週行った。
 - ・AMAKI 学で、平和、人権、職場体験など幅広い人間形成に必要な学習を進めた。
- (4) 異年齢の集団、多様性のある集団を活かし、豊かで多様な体験等を通じて、思春期にふさわしい人間的成長を遂げさせる。
- ・ライフスキル教育については、高校3カ年の指導計画が完成し、中学校への導入も進んでいる。ピアサポートと併せて生きる力を育む教育の主軸として、次年度も一層進めていく。
 - ・教育相談では、毎月のケース会議による情報共有、スクールカウンセラー相談などを行ってきた。相談希望件数が年々増加傾向にあるので、相談日を増やすなどの検討が必要である。
- (5) 適切な教育環境の整備・管理に努めるとともに、心身ともに健康な生徒の育成のための環境づくり、指導に努める。
- ・中高合同交通安全教室、中高合同交通査察などを行った。今後も家庭の協力も得ながら指導していきたい。
 - ・情報化時代に対応した携帯電話の使用方法に関しては、生徒を対象にした「ケータイ安全教室」を開催し、情報モラルの高揚に取り組んだ。家庭の協力を呼びかけ、保護者を含めた研修会も行った。

・教育相談、デイリーライフ、日常の学校生活を通して生徒の心身の状態を把握し、教員間での情報交換を密に行うことで、学年団としてまとまりのある指導・支援を行った。

2 学校関係者評価委員名

山部 正（元校長） 猪股 秀樹（多津美中学校区青少年を育てる会）
山田 耕三（ベネッセコーポレーション） 大橋 和正（岡山大学大学院教育学研究科教授）
石井くるみ（元PTA役員） 豊 美和（PTA副会長）

3 学校関係者評価

(1) 倉敷天城中学校と倉敷天城高等学校が有機的に協力し、充実した教育活動のできる学校運営を行う。

中高合同でさまざまな活動を行うことは、6年一貫教育校として不可欠である。中高それぞれの立場で指導理念が異なる点も多いが、中学校、高等学校の2ブロックという考え方を広げて、発達段階に応じた2年、2年、2年といった、よりスムーズで連続的な発想も必要である。根気よく対話を増やして、コンセンサスを高めていくしかない。

(2) 開かれた学校づくりを推進し、適切な情報発信を行うとともに、地域と連携することで教育活動を充実させる。

中学生やその保護者が知りたいのは、入学してからの見通しである。学校説明会の中で在校生の事例(リアリティ)を紹介することが大切であり、切磋琢磨できる3年間が過ごせることをアピールするべきである。

(3) 本校生徒に求められる基礎学力とこれからの時代に求められる学力をあわせて身に付けさせ、各生徒にふさわしい進路実現の基礎を培う。

中高一貫を意識して、さまざまな取組がなされている。中高接続期の教育は困難な事が多いが、中高合同での教科会議や教員研修は引き続きお願いしたい。また、高大連携事業などを活用して講演会を開催することも大切である。生徒に夢をもたせ、それに向かって努力できるなど、校内環境を整備してもらいたい。

(4) 異年齢の集団、多様性のある集団を活かし、豊かで多様な体験等を通じて、思春期にふさわしい人間的成長を遂げさせる。

中高合同でさまざまな活動を行うことは、生徒の情操教育に直結している。帰属意識・自己肯定感を伸ばさせる取組を継続していくとともに、規範意識を身に付ける指導も徹底してもらいたい。

(5) 適切な教育環境の整備・管理に努めるとともに、心身ともに健康な生徒の育成のための環境づくり、指導に努める。

交通安全については、学校のみでの指導では限界があるので、家庭の協力を得ることが必要である。教育相談体制については、校内的には整備されているものの、生徒・保護者とのギャップ等があっても十分機能できていないことも考えられるので、生徒・保護者との信頼関係の構築が大切である。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

(1) 中高6年間を見通した教育内容の改善を図り、アクティブラーニングの考えに基づく授業改善を行う。

- (2) 高校での取り組みに対する教員の理解を深化させ、教育活動の充実に活かす。
- (3) 地域に対する積極的な情報発信を行うとともに、地域・保護者等から得た情報を学校の活性化に活用する。
- (4) 充実したクラス運営を通じて、生徒の自己有用感を涵養するとともに、適切な対人関係の能力やたくましさを育成する。
- (5) 思い切った発想の転換と大胆な見直しにより、教育活動の充実と教員の負担軽減を図る。